

の進化により、さまざまな新製品開発のための研究開発投資の実施に踏み切る動きが、広がりつつあると指摘。とくに、

ル市場向けに「SKVAフレグ（炭素繊維樹脂）なっており、今後の需要と人材の育成・強化を推進。現在の350人体制から、毎年、50名以上の増員を行い、25年には

「含浸シート」の生産設備増強を決定。石川工場が可能」としている。また、19日には日本

の増員を行い、25年には

可欠。このため、マザー開発拠点の拡充・強化に取り組み」としている。

可欠。このため、マザー開発拠点の拡充・強化に取り組み」としている。

可欠。このため、マザー開発拠点の拡充・強化に取り組み」としている。

2013年

投資計画は、大

製造業・非製造

加が見込まれ

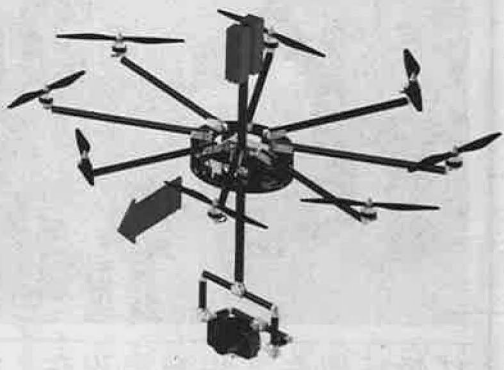
「このところ

ついても、企業

を背景に、「持

いくことが期待

静かな空撮ヘリが登場？



無人空撮ヘリコプターのイメージ

高強度マグネ合金の利用で

新素材の利用でこれまで以上に自然な野生動物の映像が見られるようになりそうだ。

TBSテレビが開発を進める無人空撮ヘリコプターがその可能性を引き寄せる。このヘリは8つの小型プロペラをもち、軽量・静音性を極限まで高めようとしている。7月12日まで川崎市で開かれた「テクノトランスフェア」にかわさき（先端技術見本市）で紹介された。

カギを握るのは撮影機を固定する3軸制御のジンバル（回転台）

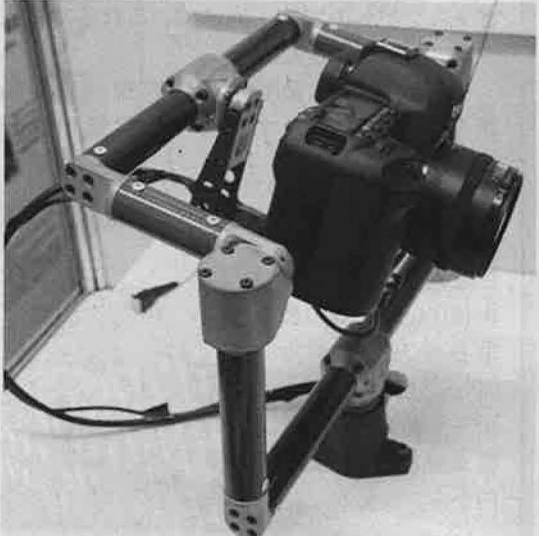
の軽量化だ。川本重工（神奈川県横須賀市）が電気通信大学と共同開発した高い強度をもつマグネシウム合金がジンバルに採用された。一般にマグネシウム合金は実用金属で最も軽いとされるが、強度が不足する欠点があった。同社の合金は562MPaと通常材の2倍ほど引張強度があり、ジンバルはこの合金とCFRP（炭素繊維強化プラスチック）で構成する。ジンバルを付けた空撮ヘリは10月頃にテスト浮上する予定で、空から動物などの撮影を狙うという。

療機器で重要となる「きれいな仕上がり」が得られるとい

面が少なく刃物への負荷が小さいため、安定加工につながる。「難削材への通常の小径のタップ加工だと刃が折れることが多く、折れた工具を取り出せないこともある」と開発

の背景を話す。スレッドミ

川本重工（横須賀工場）が電



CFRP材をつなぐ接合部にマグネシウム合金が採用されたジンバル

適性が高いが、これまで強度面で課題があった。同社は神奈川県大学などと共同で身体などの部分に適するかを検討しているそうだ。

ジェイ・エム・シー（神奈川県横浜市）は光造形機を利

用している

TIME タイムたいむ

ことだ。医療

変動の影響が

注目度が高い。

ピッチ分削るヘリカル加工で

めねじ加工するもので、接地

の背景を話す。スレッドミ

3倍強い純チタン

新素材が可能性を広げる。

気通信大と共同開発した純チタンは最大引張応力1153MPaと一般的なチタンの約3倍の強度をもち、チタン合金よりも強い「きれい」と医療

分野への適用を睨む。耐食性

に優れる純チタンは人体への

適用性が高いが、これまで強度面で課題があった。同社は神奈川県大学などと共同で身体などの部分に適するかを検討しているそうだ。

ジェイ・エム・シー（神奈川県横浜市）は光造形機を利

用している

連続で、モノづくり現場の

「洗淨と油対策」(5～7面)。

「台具こそ加工の決め手」(8月ソリューション多岐に)を特